

第4回三次市総合計画審議会 会議録

| | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和5年11月6日（月） 14時00分～16時30分 |
| 場 所 | 三次市役所本館6階 601・602会議室 |
| 議 事 | (1) 分野ごとの施策の内容・方向性について (2) まちづくりの取組を支える共通基盤について (3) その他 |
| 委員等 | <p><出席委員></p> <p>有重 由紀子／三次市PTA連合会 代表 池上 裕章／三次市住民自治組織連合会 会長 岡田 美津子／三次市女性連合会 会長 落合 裕子／三次市社会福祉協議会 監事 【職務代理者】佐藤 明寛／三次商工会議所 会頭 中井 沙耶香／三次市保育所保護者会連合会 副会長 長尾 香織／NPO法人みわスポーツクラブ 理事 西田井 恭子／三次市防災士ネットワーク 副会長 林 昭三／三次広域商工会 会長 前田 茂／三次市文化連盟 会長 財団法人三次市教育振興会 会長 政森 進／一般社団法人三次観光推進機構 理事長 森信 志津夫／三次市身体障害者協会 副会長 河野 由美子／広島県北部厚生環境事務所・保健所 保健課 課長 【会長】伊藤 敏安／広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授 田中 貴宏／広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授 西本 寮子／県立広島大学地域創生学部地域創生学科 教授 神岡 百合美／EGG(草の根国際交流会) 代表 住本 惟光／三次市官民共創コンソーシアム DXコーディネーター 水田 史人／三次金融協議会 幹事 山口 大輔／連合広島備北地域協議会 副議長 榎原 祐美／Lupine (カップペマ編集事務所) 代表・アシスタlab. 会員 道原 愛二郎／まちづくりワークショップ会長 (ひとづくり) 安信 祐治／まちづくりワークショップ会長 (くらしづくり) 橋本 葵／まちづくりワークショップ会長 (仕事づくり) 藤井 皇治郎／まちづくりワークショップ副会長 (しくみづくり)</p> <p><欠席委員></p> <p>岩本 智建／ひろしま農業協同組合三次地域本部常務理事 浦田 愛／県北地域環境活動推進協議会 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう 副理事長 北木 清治／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 前田 奈美／備北ひばり法律事務所 弁護士 福永 丈也／まちづくりワークショップ会長 (環境づくり)</p> <p><事務局></p> <p>笹岡 潔史／三次市経営企画部 部長 渡部 真二／三次市経営企画部企画調整課 課長 加藤 泰／三次市経営企画部企画調整課 係長 森岡 弘樹／三次市経営企画部企画調整課 豊永 美由紀／ 同 上</p> |

(事務局)

開会に先立ち、ひと言お願いをさせていただきます。ただいまのところ傍聴の希望はございませんが、途中から希望があった場合は、傍聴されることについて、ご異議はありませんでしょうか。

(各委員了承)

ありがとうございます。また、本審議会のご意見を記録するため、音声の録音をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

後日、会議の記録につきましては、ホームページなどで公開させていただきますので、どうぞよろしくをお願いします。

1 開会

(事務局)

ただいまから、第4回三次市総合計画審議会を開催します。

委員の皆様には、10月27日の審議会に続きまして、ご出席ありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、伊藤会長からごあいさつをいただきます。

2 会長あいさつ

(会長)

皆様、こんにちは。本日は、前回の続きが約半分残っています。本日は、新たな議事として「まちづくりの取組を支える共通基盤」について、ご審議いただきます。

お手元の次第に記載がありますように、当初の予定は、16時に終わる予定だったのですが、最大30分程度延長させていただければと思います。時間内に議論が終了しなかった場合には、後程メール等にてご意見をいただければと思います。

(事務局)

ただいまの出席委員は23名です。Webでは、河野委員、西本委員にご参加いただいています。

それでは、早速ですが議事に入って参ります。進行は伊藤会長、よろしくお願いします。

3 議事

(1) 分野ごとの施策の内容・方向性について

(会長)

最初に、審議会運営規則第10条第3項の規定による本日の会議録署名委員を指名させていただきます。今回は、西田井委員と前田委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、議事1に入る前に、前回ご欠席の委員で、前回議論しました「保健・医療」「福祉」「多文化・共生」「自然環境」「生活基盤」「防災減災・安全」「子育て」「教育」につきまして、何かありましたら、後程、ご意見をいただければと思います。

それでは、「議事(1) 分野ごとの施策の内容・方向性について」をご審議いただきたいと思います。

資料3の政策4～6についてです。9ページから15ページにかけて、1ページごとに議論いただきたいと思います。

時間については、各ページ説明を3分程度、質疑応答・意見交換を8分程度、1ページ1施策について、11分程度を目途に議論を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。それでは、事務局から資料の説明をお願いします。

《公開用》

(事務局)

＜事務局説明（略）＞

(会長)

左側の現状・課題には、市民意識調査の結果やまちづくりワークショップでのご意見が整理されています。それを踏まえて、施策の方向性や主な取組が対応しているか、めざす姿を達成するための施策が記載されているかどうかなどを議論していただければと思います。

(委員)

時代の変化とともに年齢層も変わっています。少子化が進む中で、人口構成も変わってきているところですが、そのような中で、新しい文化・芸術の開発、または取組が必要になってくると思います。現在は、若い世代が楽しむようなジャンル、具体的に言えばダンス文化などが活発に活動され、評価をされていると思いますので、そのようなところにも目を向けていただきたいと思います。

(委員)

施策1に記載されている主な取組は本当に大切なことで、「美術館の入館者数」「文化施設の入館者数」の目標値が出されていますが、それらを達成するには幼少期から芸術・文化に触れ合うような積極的な取組が必要ではないかと思います。豊かな感性を育成し、芸術・文化を支えていくためにも、そのような視点も取り入れていただけたらと感じました。

(会長)

前回、「教育」分野のところ、学校教育は記述されているが、社会教育が少ない、あまり触れていないのではないかというご指摘がありましたが、それに加え、幼少期において文化などに接する機会等も重要というご意見だと思えます。どこかで反映させていただければと思いました。

(委員)

現状・課題に「歴史・伝統文化を継承していくにあたっての後継者・人材不足の課題が生じている」と記載があります。施策2に記載のあるような、もののけミュージアム、鶺鴒、神楽に関する取組は、いずれも三次DMOが関わっている事業になります。新たな価値を創造する取組として、もののけミュージアムにおいては、ミュージアムの前にステージがありますが、神楽とコラボした定期公演ができないか模索をしているところです。鶺鴒につきましては、鶺鴒匠の継承ということが大事な取組になるかと思えますので、今後とも頑張っていきたいと思えます。

(委員)

「保健・医療」の分野に戻りますが、現状・課題のところ、食育について触れている文章があります。そこには「食文化の継承」とあるのですが、結局、施策で反映されていないことが気になっていました。「食文化」については、「芸術・文化」の分野で取り上げていただいてもいいのではないかと思います。私自身、集落の加工所に関わっていることもあり、年代を超えたつながりの中で、食文化を学び、子どもたちに伝えること、私たち親世代も関わっていくことの必要性を感じています。食べることは生きることだと思います。世代を超えたつながりの中で、みんなで学ぶような場があると良いなと感じています。食に関しての生涯学習がもっと広がっていくといいなと感じています。

《公開用》

(委員)

私は茶道に関わっています。11月12日（日）にもものけミュージアムで裏千家の青年部の方がお茶を点てられます。ものけという文化とお茶という伝統文化を同時に体験できる場になります。当日は、私も手伝っていますので、ぜひ体験にお越しください。

(委員)

現状・課題に「生涯学習の対象者が高齢者中心になっている部分があることは否定できない。」とあります。確かにそうですし、もっと若い人たちにも文化に接していただければと思いますが、高齢化率を考えると、人口の3分の1以上が高齢者です。高齢者といっても、4人に1人が認知症患者だと言われています。そのような方々にも、文化に触れていただくためには、ハード・ソフトの面からしっかりとした対策を具体的に考えていただく必要があるかと思えます。

(委員)

左側の目標指標の「地域の伝統文化を保存継承している」と思う市民の割合」が39.4%とありますが、すごく低いなと感じています。一方で、施策2のKPI「昔からあるお祭りなど地域の伝統が大切にされている」とイメージを持つ中高生の割合」は83.2%となっていて、かなり高いなと思いました。聞き方だと思うのですが、「地域の伝統が大切にされているか」と聞かれた場合、大切にされていると思う人は多いと思うので、中高生の場合は、高い数値になったと思います。「誇り」の部分で言うと、これでいいのかもしれませんが、「継承」の方をどうするか大切かと思えますので、伝統文化に関わっている、そのような体験をしている子どもたちの人数をKPIにして、伸ばしていくような数値が見えたらよいと思いました。

「スポーツ」分野では、クラブ活動でスポーツをしている中高生の割合をKPIにされていますが、現状、文化部の部活動が少なくて選択肢がすごく少なくなっているということがあります。芸術・文化に関わる部活動にも力を入れていくと、より多様性や創造力のある子が育っていくまちにつながるのではないかと思います。先日、市民ホールきりりの運営会社の方が、子どもの部活動の拠点になりたいという発言をされていて、私はすごく嬉しかったです。このようなチャンスを活かして、10年後、子どもたちの未来が広がるような芸術・文化も視野に入れていただければと思います。「教育」分野からではなく、「芸術・文化」分野からアプローチしていただき、子どもの部活動の発展的な目標を入れていただきたいです。

(会長)

それでは、関連が深いので「施策分野2 スポーツ」の説明を事務局からお願いします。

(事務局)

<事務局説明（略）>

(会長)

スポーツにつきましては、クラブ活動を地域との連携で進めていくことも言われています。スポーツだけでなく芸術・文化も含めて、地域との連携による取組もたくさんあると思いますので、広い視点で議論していただければと思います。

(委員)

施策2のKPIに「中高生がクラブ（運動・スポーツ）などに所属している割合」とあります。この数字を目標にしてしまうと運動が苦手な子どもや文化部で活動したい子どもの肩身が狭くな

《公開用》

るのではないかと感じています。施策2の主な取組にある「トップアスリートやトップチームとの交流を通じて、苦手な子にスポーツの楽しさや魅力を知ってもらうきっかけづくり」というのは非常に良いのですが、トップアスリートやトップチームが来た場合、運動が大好き・得意で、その分野に興味がある子どもは積極的に参加すると思いますが、そうになると運動が苦手な子どもは入る余地がなくなってしまうのではないかなと思います。運動が苦手な子どもは、自分の体をどう動かせばどうなるのかが分からず、コツが掴めていないので、運動から離れてしまって余計ハードルが高くなっていくと思います。苦手な人でも参加しやすくなるような取組があったら良いと感じました。

(委員)

ここに来る前に、「スポーツ庁が考える「スポーツ」とは？」という記事を調べてみると、スポーツの概念は、「行う」だけでなく「みる」「ささえる」ことだと書いてありました。プロ野球を観て、感動して、モチベーションが上がる人もいると思います。ここには、「行う」ことが主体で書かれているような気がしますので、もう少し視野を広げて、「みる」「ささえる」という視点もあった方がいいのかなと思いました。

(委員)

「スポーツ」とは何かということで、ここには、競技スポーツや生涯スポーツという記載があります。「週1回スポーツしていますか」と聞かれています。このスポーツは何を意味しているのでしょうか。ウォーキングなども含めてスポーツと捉えるといったような記載にさせていただけるとありがたいです。

(会長)

今後の市民アンケート等の設問の仕方にも関連してくると思います。

(委員)

「芸術・文化」の分野とあわせて、「スポーツ」分野においても、「中高生」「女性」と対象が特定されている部分が多いことに引っかかっています。「芸術・文化」「スポーツ」のいずれも、幼児期からの経験や体験が大事だと言われているので、対象を幼児や小学生にして、初めて体験したことが長年続けられるようなくみづくりになれば、生涯スポーツ・生涯学習につながっていくのではないかと思います。

(事務局)

「芸術・文化」の分野で、欠席された委員からご意見をいただいています。紹介をします。施策3のKPI「文化に関する出前講座・生涯学習事業等参加者数」とあるが、参加者数を指標にすると大人数の事業評価が高くなるので、回数で測ってはどうかというご意見です。このKPIについては、文化財に関する現地説明会や文化に関する出前講座で数値を把握していこうとするもので、極端に大人数の事業は入っていませんので、人数で測らせていただければと思います。

(委員)

先ほどの、幼少期から高齢者まで続けられるしくみづくりがあったら良いというご意見で、私が携わっている総合型地域スポーツクラブは、運動が苦手な子どもや運動から距離を置いている成人、高齢者の方をどう取り込むかということを重点に活動しています。大きな成果は提言でき

《公開用》

ないのですが、会員の方に話を聞いたところ、苦手だった方が、前向きに健康やスポーツに触れあう意識改革ができたというようなご意見もあって、少しは貢献できているのではないかと感じました。

現在、総合型地域スポーツクラブは、市内に一ヶ所しかないのですが、複数あれば「豊かな心と生きがい」として、スポーツだけでなく、文化の面も活性化していくのではないかと思います。自分たちも、健康づくりやスポーツだけではなく、文化の取組も取り入れながら活動する中で、関わっておられる方は達成感や生きがいを感じていただいているので、このような活動も市内全域に広がるとういなと思います。

目標指標に「週1回以上スポーツ実施率」とありますが、目標指標がもう少し増えたらいいのかなと思います。例えば、スポーツだけでなく、文化もそうなのですが、DXの推進に取り組んだら、若い世代が入りやすくなるのではと思います。デジタル技術のスポーツも注目されています。リモートでもスポーツができる時代ですし、VR等も活用して、若い世代に浸透させていったらいいのかなと思います。

施策1のKPI「地域活動の中で「スポーツ・レクリエーション活動」をしている市民の割合」は、現状の数値が10.9%ですが、モチベーションをあげるというわけではないのですが、数値目標と同じくらいの数字、60%や65%を目標値にしてはと思います。

施策3に「女子スポーツ」という文言が出てきていますが、前回の議論でも話に出ていたと思うのですが、「女性」を「弱者」と捉えているような感じもするので、多世代を表すような表現になればいいのではと思います。女子スポーツの推進は、スポーツ庁が示す「第2期スポーツ基本計画」に挙げられているので、このような表現になっていると思います。令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定されていると思いますが、その中の新たな視点に「性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し」という表現があるはずなので、それと合わせて、主な取組の中に記載されている「女子スポーツ」という表現を変えた方が良いのではないかと感じました。

(会長)

「芸術・文化」「スポーツ」のいずれにつきましても、文字通り捉えるのではなく、もっと広く、まさにインクルーシブに捉え直さなければいけないという議論だったと思います。

次に、「定住・交流」の施策分野について、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

現状・課題の中ほどに、「子育て世代の負担軽減(人的・財政的支援)をはじめ」という文章がありますが、この課題は、前の分野で出てきますし、この分野の中では、対応した施策は直接的にはないので、現状・課題から削除するか、あるいは7ページの子育て支援を再掲する方が良いかと思っています。体裁の問題になるのですが、ご検討いただけたらと思います。

(委員)

まちづくりワークショップの報告会で、この分野に係る発表を聞いた時に、「二拠点生活(デュアルライフ)として、三次市が選択されたい」ということを発表されていて、感銘を受けました。施策2の主な取組に書かれていますが、KPIにはないようなので、二拠点生活をされている人たちをどう数えるか、難しいかもしれませんが、これに対応した指標があればと思いま

《公開用》

す。平日は都市部で仕事をされ、土日は田舎で田畑の趣味を楽しむ人たちの満足度が高いなど、三次を選んでいただけるような目標値があったらいいと思いました。

(会長)

指標としてはなかなか測りにくいかもしれませんが、他の分野にリモートワークの件数がありましたので、そちらとの組み合わせなども考えられると思います。

(委員)

人口増対策や少子化対策として、IターンやUターンという言葉は出てくるのですが、地元の高校を卒業して地元の企業に入って自宅から通うような、生まれてから地元で育った方のことには全く触れていません。「いつまでも住み続けたい、定住の推進」ということで、高校を卒業して三次に残った方の人数などの指標があってもいいのではないかと思います。市外から来られる方には補助金を出されていますが、三次で生まれ育って、三次に住む人には基本的には何もないと感じていますので、そのことについても記載しておくべきではないかなと思います。

(会長)

現状・課題の中で、「「三次市に住み続けたい、帰ってきたい」と思う人材育成」と記載されています。指標としては直接ではないのですが、目標指標の3番目に「社会動態（転入者数-転出者数）」で表現されていると思えば、当面の目標として設定されていると考えることはできると思います。

(委員)

三次に住み続けたいと思う市民と高校生の割合が、倍以上違うのですが、三次に住みたいと思う中高生の割合が非常に低いという原因は何か、将来の夢なども関与しているとは思いますが、原因となる部分も洗い出した方がいいと思います。この原因の一つひとつを総合的に関与させながら解決することが必要ではないかと思います。

(会長)

高校あるいは大学の時に、三次を一旦出るのは構わないと思います。むしろいろいろなスキルやノウハウを身に付けて帰ってきてもらうという方が重要ではないでしょうか。

(委員)

商工会議所も、産官学連携で学校と企業との交流の場を作っています。三次市内に高校生が求める職種や職業があるかということはあると思いますが、東京都心でなく、日本のどこにいても、しっかりと仕事ができるという意識を、高校生のうちから持っていただくことが大切かと思えます。自分で起業する場所あるいは働く場所は都心でなくても地方にもあるという意識を我々としても作っていかなくてはいけないと以前から考えていますし、そういう時代になっていくのだと思います。したがって、そのような意識を高校生にも持っていただけるよう、学校教育の中でも取り組んでいければ多少は変わってくると思います。学生の方には、どこにいないければ就職できない、仕事ができないというような狭い感覚を持っていただきたくないと思っていますし、そのような意識醸成を図っていくことが今からの我々の仕事なのだと思います。一度、市外に出て経験をすること、素晴らしくプラスになることだと思いますので、地元で継承するような職業であれば、それはそれでいいと思うのですが、新しい技術や発想を日本だけでなく、外国に行き、得て帰ってきていただくことが大切だという意識改革が必要だと思っています。それ

《公開用》

が地元のためになるという発想に変えていかないといけないと思います。

(事務局)

欠席の委員からご意見をいただいています。めざす姿に「三次に住み続けたいと思う中高生の割合」が書かれているが、施策の中に、その割合を増やすための取組が書かれていると良い。学校以外に中高生の居場所がないという声があるというご意見をいただいています。

施策3の主な取組に「きんさい祭などを通じた若者に魅力ある機会・場所を創出する。」と書いています。高校生ワークショップを通じて、三次に住み続けたい、戻ってきたいと思える取組に「にぎやかな行事があると良い」といったご意見をいただいたので、ここに取り上げています。

(委員)

今の話に関連して、お祭りもあるかと思うのですが、高校生にとって、日常における放課後の居場所づくりがないという課題は多くのまちにありまして、そのような居場所で様々な経験をすることによって地域に対する愛着が生まれて、将来三次に帰ってこようと思うきっかけになるのではないかと思います。きんさい祭といったイベントももちろんあると思いますが、日常的に地域とつながる場を作るという視点も必要なのかなと思いました。

(委員)

定住・移住の推進においては、三次の魅力をしっかりと発信することが大事だと思います。

子ども医療について言えば、他市では夜受診したくても広島市内に行かないと受診できないといったことも聞きますが、三次の場合は24時間三次中央病院で受診ができます。また、光ケーブルも市内隅々まで整備されて、Zoomなどを通じて全国でつながる環境が整っています。このような三次の住みやすいところをしっかりと発信できればいいのではないかと考えています。

(会長)

次に「住民自治」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(委員)

目標指標に「まちづくりに参加している人の割合」とありますが、「まちづくり」というもののイメージがぼらぼらになりなそうだと思います。どういう活動がまちづくりになるのか分からないので、具体的に記載いただければと思います。

施策1の主な取組の中で、「地域と小中高校・大学・企業等とが連携した取組ができるよう支援する。」とあるのですが、KPIには「大学連携協定により課題解決に取り組む件数」とあり、小中高校生に関わる内容がないので、今ここに住んでいる子どもたちとまちの関わりが見えるようなKPIがあればいいなと思いました。

施策2のKPIに、「地域と「地域に関わりたい人」のマッチング件数」とありますが、どういう方をカウントされるのか知りたいです。

この分野は住民自治に関するところなので、住民の方々が頑張っておられるような自治会単位でのお祭り・にぎわいなどへの支援についても大きく掲げてほしいと思います。

政策2「自然環境」の分野で出てきた項目で「地域活動として、自然保護や環境保全活動をしている市民の割合」というKPIがあるのですが、実際は住民の方が中心となって活動されてい

《公開用》

と思うので、この分野にも記載されると、成果がわかりやすく見えてくるのではないかと思います。

(会長)

「地域と「地域に関わりたい人」のマッチング件数」ですが、主な取組の中には記述が出てこないで、施策として打ち出した上で、指標を提示された方が良いかと思いました。

まちづくりの内容につきましては、アンケートの中では事例があったと思いますので、説明として必要かと思います。

住民自治全般の問題なのですが、住民自治本来の問題、自治会、町内会等について、もう少し強調されてもいいのかなと思います。

(委員)

住民自治の課題として、人口減少・少子高齢化などにより、人と人のつながりが希薄になっていると書かれています。昔は自治活動が今より盛んだっただろうと思いますが、「目的型コミュニティ」となると、能動的な活動が重要になるので、しくみづくりをしっかりとしていく必要があるかと思います。

医療の分野では、予防という面で健診を挙げていただいています。病気が発症する前の状態では、医療が関われないので、食事や身体活動が大切になりますが、つながりにも、我々もどこにつないだら良いのか分からず、つながるところがありません。行政の下支えやしくみづくりをきちんとしないと、絵に描いた餅になるのではと不安に感じます。

(会長)

「防災減災・安全」のところで「自助」「共助」「公助」の議論をしたと思うのですが、一番身近な自治組織においても、同じような問題意識が必要だと思います。組織率や加入率の問題だけではないと思うのですが、それを維持するという目標があってもいいのかなと思いました。

(委員)

住民自治の問題で、私たちも、常会や自治会の構成員となっていますが、移住してこられる若い方々は常会や自治会等になかなか参加されないという現状があります。

地域の祭やいろいろなコミュニティ活動をする際に、新しい住民の方々の協力や参加が得られないことで、そのような団体の行事ができない状態にだんだんと陥ってきています。それぞれ考え方が違う中で、施策2にありますように、多様なつながりを活かした地域づくりをどのように構築していき、どのような枠づくり、協働的な意識づくりをしていくのかということは大変重要なことだと思います。

秋祭りをとってみても、子ども会に協力をお願いを依頼しても、協働の取組を理解していただくことが難しくなっているように思います。つながりを持つ中で、このような状況の改善を進めていけるような取組を記載いただき、仕掛けも考えていただきたいと思います。

(会長)

このような「自助」「共助」あるいは「互助」の組織は、何らかの地域課題に対応するために重要な基盤と言えます。加入率や関心が低いということは、課題が深刻化していないという表れで、良い面にも見えますが、防災減災の活動など、いざ何か起きた時に、このようなつながりを確保することは身近で重要なことと言えます。

次に、政策6の分野について、事務局から説明をお願いします。

《公開用》

(事務局)

＜事務局説明（略）＞

(会長)

施策4にKPIが3つあります。その下の2つ、中山間交付金と多面的交付金があり、それぞれ分母になる全体協定数があって、その内いくつという記載をされていてわかりやすいと思います。同様に、施策1のKPI3つ目、「受入研修生のうち、研修後に就農した人数」についても、分母となる全体の数字を出していただいた方が、どのくらい頑張っているのか実感を掴みやすいので、記載を工夫していただければと思います。

(委員)

私も8年以上農業をしているのですが、施策3にもありますように、鳥獣被害防止対策が重要かと思います。現状を申しますと、平野のような農地は良いのですが、山際にある田んぼは、太陽光発電施設を設置されていたり、耕作放棄地になっています。その背景として、農業機械の経費がとても高いということもありますし、水田や畑でイノシシやシカが猛烈に暴れるということがあります。多大な労力、多額の資材に加えて、鳥獣被害で収入が激減するということが致命的なことだと思います。そのような中で、施策3にあるように、鳥獣被害対策の推進ということが大事で、農家をしっかりと支援するということが重要なことかと思います。

施策1の「食農教育」に関連して、日本の食料自給率は37%で、何かが起こると大変なことになると思います。食料自給率の問題から、農業の重要性や人の命は、お米で育まれているといった価値観をしっかりと認識していくことが大事だと思います。そのためには、農業している人のための支援策が大切になってくると思います。

(委員)

食農教育については、農業の場で働く者として、とても嬉しく、大事なことだと感じています。みよしアグリパーク整備事業は、実際なかなか進んでいないという話を聞いていて、新しいぶどう園地の整備に関しては進んでいるという話ですが、トレッタみよし周辺の整備は、進んでいないと伺っています。当初のビジョンから内容が変わってきて、見直しをしないといけないということであれば、ここに「整備を進め」と書いているのはどうなのかなと思います。

また、誰がやるのかということが一番重要だと思います。農業の担い手がいないという状況の中、外から人を呼んで行うことに何の意味があるのでしょうか。三次の農業を語るのであれば、今、三次で頑張っている農家の方が、いきいきと暮らせるように取り組んでいただきたいと思います。

みよしアグリパークを酒屋に作ることで、この地域が更に魅力的な地となることは分かりますが、ここで完結してしまえば、三次の良さは伝えられないと思います。三次の良さは、周辺部を含めて、いろいろな地域で各々の個性を活かした取組がなされていることだと思いますので、観光の視点からも、各地域を周遊することに価値があることを取り挙げてもらいたいです。

いろいろな農家の方と話をすることで、農家の方の人の良さを感じています。「みよし 人よし 元気よし」と謳うのならば、その方々を中心とした継続できる農業にしていきたいという思いがあります。担い手が減ってしまうと、10年後にはトレッタみよしに並ぶ野菜も減ってしまうと思います。農業に対して、稼げない、しんどいといったマイナスイメージが強いですが、地域の方が、子どもたちに、しんどいだけではない、農業の魅力を伝えていくことも大切だと思います。

《公開用》

(委員)

中山間交付金とありますが、中山間地域等直接支払制度のことで理解してよいでしょうか。
多面的交付金については、多面的機能支払交付金のことで理解してよいでしょうか。

(事務局)

その通りです。

(委員)

全体協定数が234とあり、9協定、11協定、13協定とありますが、9、11、13は何を示しているのですか。

(事務局)

中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払交付金については、集落・地域ごとに農業者が協定を締結されていますが、広域化により複数集落の広域的な活動組織にしようとするもので、広域化した協定数が分子の数になります。

(会長)

広域化することが望ましいということでしょうか。

(事務局)

国としても、そのような方向性で進めており、地域や農業の担い手の確保が厳しくなる中、広域化をすることで、活動組織の負担軽減につなげていこうとするものです。

(委員)

それぞれの田んぼの将来像を示し、その計画に基づいて地域の将来像を示すものですが、これからは、維持できないような田んぼも生じます。集落で話をしながら、取り組んでいくこと、取り組めないことを決めて、取り組めないものについては、隣の地域と一緒にやって取り組んでいかないと、これから先、農家がなくなっていくと思います。

(委員)

農業に無知な立場で読ませていただいた時に、他の施策分野と違って、業界用語ばかりで、本気で農業をされている方しか分からないのではと思いました。「田園都市」と掲げておられる中で、この分野がその役割を大きく担っていると思います。アンケートでも「自然が豊か」など良い結果が出ていますが、この分野が大きく関わっていると思います。したがって、事業の成果が見えるような数値ばかりでなく、他分野と同様に、市民の満足度、子どもたちがどう思っているのかといった視点から、施策や目標を立てていただきたいと思います。

二拠点生活（デュアルライフ）を推奨するのであれば、本業の農家だけではなく、土日に土いじりを楽しむ方のような関係人口を増やしていくという取組も取り入れていただきたいです。

子どもたちへの農業に関する教育については、教育分野からではなく、農業分野からアプローチした施策を立てていただきたいです。

(委員)

中国や韓国の旅行業者の方とやり取りをしていますが、その方が話すには、参加者が平田観光農園でいちご狩りやピザ作りなどの体験をされて、大変喜ばれていたということです。施策2で

《公開用》

観光のことに触れられていますが、他の委員もおっしゃっていたように、各地域の魅力を体験していただくような取組は大切なことだと思います。

(会長)

次に「商工」の分野について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(委員)

近年、デジタルなどの先端技術を利用する企業が増えていると感じています。KPIに「起業件数」があり、目標値が年間10件とありますが、三次の自然や豊かな土地を活かし、効果的な起業支援の推進として、具体策を立てて前面に打ち出すとともに、商工会議所を先頭に、様々な研究機関や先端企業に対するアプローチが必要ではないかと思います。これからの起業支援の取組について方向性があるようでしたら教えていただきたいです。

(事務局)

起業支援については、まちづくりワークショップでも市の現状の支援制度は充実しているというお言葉をいただいたところです。また、起業した後の支援があればというご意見もいただいているところです。

(会長)

この件数は、市の制度を利用した件数ですので、制度を利用せず、自分たちで開業したという事例はいくつかあるだろうと思います。そのような起業が、市内の各所であるような状態が望ましいのではと思いました。

(委員)

農林畜産と商工は、離れているようで、すごく近い関係だと思います。作られたものを加工し販売することで、稼げる農業・林業につながってくるとと思いますので、一緒になって取り組むことが大切かと思います。そこに、若者たちが参画し、アイデアを出し合っていけたら、何か新しいものができると思います。

(会長)

他の分野に跨る取組、いわゆる6次産業のような分野も重要だと思います。
最後に、「観光」につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(委員)

現状・課題で、観光消費額が低い、宿泊へのシフトが必要と記載されていますが、観光消費額を上げるためには、宿泊者数を増やすことが大事だと思います。

推進体制については、昨年4月から市内5つの観光協会とみよし観光まちづくり機構が合併して三次DMOとなりました。三次DMOが中心となってインバウンドも含め取組を行っている

《公開用》

ここで、施策1のKPIに宿泊者数を掲げていただいておりますが、三次DMOとして、どう結果を出していくか、信念を持ちながら取り組んでいきたいと思っております。

三次の観光を通して地域が活性化するためには、市内業者の皆様にご協力いただくことに尽きるのですが、宿泊者数15.5万人を令和10年には18万人、令和15年には20万人にもっていくことで、観光消費額も上がっていきます。ルートインホテルが開業した一方、君田温泉が閉館している中、対応策を検討しているところです。

目標指標のところに観光消費額がありますが、これまで、様々な施策を展開する中、現状値62億7千8百万円が実現でき、令和10年には77億円、令和15年には100億円を目標に取り組んでいきたいと思っております。

施策1のめざす姿にある「多様な関係者の参画のもと」に関連して、昨年度から三次DMOを含め、三次ワイナリーや宿泊事業者、交通事業者、生産者や農家の方、飲食事業者、行政などで構成する三次観光推進委員会を立ち上げ、その中で議論したことを施策に展開し、宿泊者数を増やしていくということに取り組んでいます。具体的には、市内のホテル・旅館と市内の飲食店が連携して、宿泊者が市内の飲食店を利用されると割引券がもらえるような施策の展開をしています。

施策2に「インバウンド誘客」とありますが、三次観光案内所では、英語、中国語、韓国語が話せる、もっと言えばスペイン語も話せる職員を3名常駐するような体制を取っています。様々な言語に対応できるような機器も整備しています。観光分野については、今後も三次DMOが中心となって、取り組んでいきたいと思っております。

(会長)

先ほどまでの議論にありますように、観光によって、いろいろな雇用が生まれる、飲食サービスや体験そのものが三次にお金を落とさせていただけるきっかけになると思っております。特に外国人については、交流や体験などの需要が今後もあると思っておりますので、上手に巻き込んでいくことが重要かと思っております。

(委員)

私は、他県に住んでいた時に、三次に観光に来たことがあります。三次市内を回る際、車がないと不便だと感じました。観光客の方は必ずしも車で来られる方ばかりではないので、公共交通機関を使って来られた方も市内の観光スポットを回れるような交通アクセスの改善などがあればより効果的なものになるのではないかと感じました。

(委員)

三次にJR等で来られて、市内の観光をされる方は、三次町方面とワイナリー方面に分かれます。

ワイナリー方面については、三次駅からバスが30分おきくらいに出しており、三次町方面については、高速バスで三次小学校へ行く便、もしくは市民バスを利用されます。三次観光案内所に電動スクーターが3台配置されており、まだ十分ではないかもしれませんが、今後さらに充実していけるよう対応していきたいと思っております。

(委員)

県北には、安芸高田市、庄原市、三次市があります。それに加えて、三次は江の川、西城川、馬洗川などの河川が集合した地域です。三次だけの施策で観光開発を進めていくよりは、3市周辺を含めて開発・PRをしていく必要があるのではないかと感じました。

《公開用》

車やタクシー以外にも、自転車のサイクリングコース、河川敷のランニングコースもあっていいと思います。その辺りの活用、PRをもう少ししていただいて、近隣の市町村と連携をしながら広域的に観光開発を進める必要があると思います。総合的な全体像を描いたうえで、行政自ら観光開発を行ってほしいと思います。

(委員)

三次市、庄原市、安芸高田市との広域ネットワークの取組についてですが、現在、三次と庄原では、備北観光ネットワーク協議会で連携して取り組んでいます。また、安芸高田市とは、月山富田城の尼子氏と毛利氏が戦った場所が三次ということもあり、今年のさくら祭で、安来市を含めて交流を図ったところでした。三川合流部ということで、三次は日本でも珍しく、江の川、西城川、馬洗川が集まる環境にあり、このような環境を活かしていきたいと思っています。江の川カヌー公園では、「江の川 Eバイク de ポタリング」というイベントをして、島根県まで行って帰れるような取組をしています。海外から見たら三次、庄原、安芸高田など関係ありません。中国から修学旅行生を迎える際も、三次市内で受け入れることができるような人数ではありませんので、周辺の市町と連携して取り組めたらと思います。

(会長)

周遊性、広域性は重要だと思います。周辺を周っていただいて、泊まるのは三次という売り込み方もできると思います。交通については、ぜひシェアライドのようなことを実験的に、タクシー会社と両立し得る形で導入を進めていただければと思います。観光客だけでなく住んでいる交通弱者の移動手段を確保するという面でも重要かと思います。

次の議題に入る前に、全体を通して、言っておきたいことがあればお願いします。

(委員)

4ページの政策2、「自然環境」の「施策2 脱炭素社会の実現・循環型社会の推進」について、主な取組やKPIを見ても循環型社会の推進の方に重心があるように思いますので、目標指標のところ該当するかもしれませんが、脱炭素社会の実現に向けた取組をもう少し打ち出されてもいいと思いました。

5ページの「生活基盤」の「施策2 自然環境と歴史風土が融和した景観形成」のめざす姿に、中心市街地の話が記載されています。中心市街地は、三次のまちづくりを考えると非常に大事だと思います。これは景観形成だけの話ではないと思いますので、中心市街地の話はこの施策から独立していてもいいのではないかと思います。少なくとも景観形成のところではないのかなと思いました。

(委員)

脱炭素の取組についてですが、三次市では、生ごみを燃やして処理をしているのが現状で、その炉も近々更新期が来ると聞いています。さらに、今後は、バイオマス発電ではなくて、バイオガス発電が主流化してきています。これは、大きなプラントではなくコンパクトなユニットタイプでも対応できるようなので、実現できる方法を行政も一緒になって考えていただきたいと思います。その視点について、脱炭素の取組の中に、ぜひ盛り込んでいただき、行政側から打ち出していただきたいと思います。

(委員)

1ページの「保健・医療」のところですが、「施策3 地域で支える医療体制づくり」で「基

《公開用》

幹病院である市立三次中央病院を中心とした地域医療連携」とありますが、具体的に医師会や歯科医師会、薬剤師会の団体名を入れていただけないかと思えます。

施策1, 2に関して言うと、予防や健康増進については、保健と地域が関係してくるのですが、これまでの議論を通して、施策は縦割りになりやすいとありました。個々の施策を見ると横のつながりはあるのですが、もう少し全体を見ながら横の関係がわかるような記載が必要ではないかと感じました。

(会長)

1ページに限らず、他の分野にも該当するご指摘だと思いますので、工夫していただければと思いました。

(委員)

1ページの「保健・医療」について、現状・課題の中では「妊産婦・乳幼児への保健対策などを進めていく必要がある」と記載されているのですが、施策の中では乳児を含めた子どもに対する医療が見えませんでした。現在、とても充実した支援をさせていただいて、ここに記載がないと10年後、そのような支援がなくなるのではないかと感じてしまいますので、何かしら記載をしていただきたいなと思いました。

15ページの「観光」について、施策1の「『質』を重視した付加価値の高い」とありますが、この表現には賛成です。「『質』を重視した」に対応するものとして、接客対応、ホスピタリティの醸成といった点が見えてくればと思います。

「きんさい祭」という言葉が、「定住・交流」のところに記載されていますが、このようなイベントの相談をさせていただく時は、産業振興部ではなく地域振興部の方に相談することになるのか、花火大会などの大きなイベントについては、「観光」分野ということになるのであれば、「観光」分野にそのような施策が盛り込まれるべきではないかと思えます。

(委員)

イベントに関連すると、大会やコンベンションをもう少し充実できる可能性があるのではないかと考えています。三次の立地条件、充実したスポーツ施設、宿泊施設をみても、大会誘致のような取組を積極的に行っていただければ交流人口が増えていくのではないかと考えています。

(委員)

「豊かな心の生きがい」は「芸術・文化」「スポーツ」から広がっていくものと思いますが、「質の高い芸術・文化、スポーツに触れる機会を確保する」という言葉をどこかに入れてもいいのかなと思います。コンベンションや商工、観光にも関連してきますし、市民の方々の豊かな心の育成にもつながっていくのではないかと考えていますので、何か入れればいいなと思いました。

(委員)

安芸高田市、庄原市、三次市の3市が共同でイベントをする機会が増えてくる中、三次市が中心になって行ってほしいと言われます。交通機関を考えても本当にそうだと思います。

JRをとっても、広島から三次までは快速が通っていて便利です。広域な庄原市に比べて、三次は周辺部から中心部に来やすいと思います。そのような点からしても、三次の地の利を活かして、庄原市、安芸高田市と一緒に取り組めればと思いました。

新たに宿泊施設ができたこともあって、中国大会、中四国大会、西日本大会、予選、決勝戦が続けて行われることができるようになりました。そのような点を積極的に発信していき、来られ

《公開用》

た方に三次の良さもアピールできればと思います。

きんさいスタジアムは、遊具の見える野球場なので、素晴らしいと思っています。来られた方が、子どもたちを大切にしている、若い親御さんが楽しんでいる、スポーツが盛んなまちだという印象を持たれるのではないかと思います。

もののけミュージアムや市民ホールもありますが、三次は図書館も充実していますので、図書館を活かして、読書の推進活動も進められたらと思います。9ページの施策3にあります。読書は幼児から高齢の方まで取り組めて、お金もかかりません。移動図書館もあります。そのような点も活かして読書活動を推進していけたらと思います。

11ページの目標指標に「社会動態（転入者数-転出者数）」がありますが、これから外国の方が増えてくると思いますので、外国の方も三次に住んでもらえるような取組が進められたらと思います。事業所や学校と連携を取り、三次の良さを発信しながら、進めていけたらと思います。

13ページの現状・課題に、トレッタみよしのことは書いてありますが、周辺の道の駅や産直市のことにも触れてはどうかと思いました。地域の人が出店するようなところも、まちの人は探して行かれると思います。ドライブがてら周ってもらえるよう、発信していければと思いました。

(委員)

13ページについて、林業の方と話をする機会がありまして、林業が整えば、林業を生業とする方が増えて、農業も整い、漁業も整うようになることでしたので、林業の後押しが必要だと思いました。

9ページについて、伝統文化に関わって、伝統技術としてしめ縄を継承する方が少なくなっています。そのような伝統技術を子どもの頃からの学びに取り入れていただけるような取組があったらと思いました。

15ページについて、「『質』を重視した」とありますが、すばらしい観光体験や人の魅力は印象に残りやすいということもあって、人の魅力やホスピタリティの醸成は大事ななと思いました。

(2) まちづくりの取組を支える共通基盤

(会長)

「まちづくりの取組を支える共通基盤」について事務局からご紹介をお願いします。

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

これまで議論してきました、資料3の6つの政策と15の施策分野にまたがる共通の基盤ということで説明をいただきました。この共通基盤は、最終的に総合計画の前半に位置づけられるものと考えてよろしいでしょうか。

(事務局)

はい、そうです。

(会長)

“ツナガリ人口”という表現が出てきますが、資料3では、交流人口、関係人口という表現が使われていますので、“ツナガリ人口”に統一してもいいのではと思いました。

2ページの「4 広域連携の推進」のところですが、地域を超えたの「超えた」が超越の超に

《公開用》

なっていますが、「越」の方がいいと思います。

(事務局)

訂正させていただきます。

(委員)

「2 情報発信・シティプロモーションの推進」のところで、「市民が「三次市に暮らして良かった」と感じられる」と書かれていますが、住んでいる人だけが暮らしてよかったと感じるだけでなく、人におすすめしたい、一緒に暮らそうとすすめられるような表現があったらいいのではと思いました。

(委員)

「1 つながりによる協働・共創の推進」ですが、「ソト」と「ウチ」でのつながりにはツールがいると思います。そうでないと、単純な出会い的につながりになってしまいます。そうしたツールをイメージしながら「ソト」と「ウチ」の関係を深めていくことが大事だと思いますので、上辺だけのつながりではなく、一步掘り下げていただければと思います。

(会長)

たくさん書くことはできないと思いますが、このような短い文章の中に、今のようなご指摘をいかに反映させるかということも重要なことだと思います。

資料3の11ページ、「定住・交流」分野の左側に「三次市に住み続けたい、帰ってきたい」という表現があります。これも重要なのですが、委員のご意見の趣旨を踏まえると、今住んでいる人が帰ってくるだけでなく、新たに移住される人の視点も含めればどうかということも大切かと思います。資料4と絡めて表現を工夫していただければと思いました。

(委員)

全体的に見て教科書通りだと思いました。日本の中で、一番、三次に住みたいと思えるような内容とは思いませんが、ここに書かれていることは実現してほしいと思いました。

「5 行財政改革の推進」に、「真に行政が担うべき事業を選択して、効果的・効率的に実行する」と記載されていますが、ここが一番大事ではないでしょうか。人が減ることで財政が逼迫してきますので、できれば目標として「日本で一番税金が安い市、尚且つ行政サービスがしっかりと揃っている」などを目標に掲げないと、魅力あるまちにはならないと思います。

そのためには、ここにいらっしゃる方々も含めて、それぞれの立場でできることをやっていくしかありません。そのような魅力のある文言が入ってくれば、SNSに取り上げてもらえるかもしれません。「三次は日本一税金が安くなるらしい」と出れば、皆さんが「行って住んでみようか」「話だけ聞いてみようか」という気になるものと思います。書かれている内容をSNSに掲げたところでそんなに話題になるでしょうか。10年前もこのような話をしました。

市では、Iターン、Uターンされた方と話をする機会を持っていますが、若い方を取り上げてお話をされています。私自身もIターンですが、若い人だけでなく、三次に住んで長い人も一緒になって話ができる場があれば良いと思いました。

(会長)

ワークショップでも様々な交流があったかと思います。もっと焦点を絞って、UIJターンで移住された方と市民との交流をする中で、新しいものが生まれるというご指摘は重要だと思いま

《公開用》

す。

(委員)

「5 行財政改革の推進」のところで、「決断力のあるスリムでネットワークの良い効率的な行政組織づくり」と書かれてはいますが、今回2日間にわたって議論させていただく中で、この資料自体が縦割りで作られていて、横の広がりを感じない、部門をまたぐイメージが湧かないものと感じます。ここに参加されている皆さんは、横につながった政策を期待されていると思うので、ネットワークが軽くて効率的だということも大事ですが、横軸を大切に行政組織をお願いしたいと思いました。

(会長)

行政として、縦割りにならざるを得ないのは、予算が縦割りになっているからだと思いますが、横軸の連携に、官民含めて取り組んでいくことが重要かと思います。

(3) その他

(事務局)

本日は、長時間にわたりご意見いただきまして、ありがとうございました。

次回の会議のご案内をさせていただきます。次回は、11月24日（金）13時30分から計画（素案）についてご審議していただく予定としています。どうぞよろしくお願い致します。

4 閉会

(会長)

長時間にわたりまして、ありがとうございました。次回は今日の議論を踏まえた資料が示されると思いますので、引き続き、活発なご議論をお願いしたいと思います。ありがとうございました。